

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 30 年度 高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	平成 30 年 10 月 26 日（金） 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分
開 催 場 所	高松市防災合同庁舎 3 階 302 会議室
議 題	(1) 2015（平成 27）年度温室効果ガス排出量等について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	16 人 嘉門会長、清水副会長、生嶋委員、池田委員、石川委員、植松委員、宇賀神委員、大三島委員、大山委員、片山委員、勝浦委員、熊野委員、高橋委員、中山委員、森田委員、山下委員
欠席委員	1 人
傍 聴 者	0 人 （傍聴席：10 席）
担 当 課 及 び 連 絡 先	環境総務課地球温暖化対策室 （TEL 0 8 7 - 8 3 9 - 2 3 9 4）

審議経過及び審議結果

協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

(1) 2015（平成 27）年度温室効果ガス排出量等について

（事務局より説明）

以後審議

（委員）

資料の内容について、1 ページ目の棒グラフと 4 ページ目の左下の円グラフは共に環境省が出典の平成 27 年度の温室効果ガス排出量を表すものだが、総排出量の数値が異なるのはなぜか。

（事務局）

すぐにお答えできないので、後日回答させていただきたい。

（委員）

太陽光発電の補助について、固定価格買取制度の買取価格が今後、極端に低下すると認識しているが、そうすると数万円の補助をしたところで設置件数は伸びないのではないか。また、太陽熱利用システムの補助件数が増えていないのは予算が上限に達したので補助を打ち切ったためと説明いただいたが、申請自体は何件あったのか教えていただきたい。

## 審議経過及び審議結果

(事務局)

太陽光発電の補助については現在、年間 400 件以上の申請が来ている状況である。確かに固定価格買取制度による買取価格は年々下がっているが、エコ住宅という形による売電でお金に換えるというより環境にやさしいということで蓄電池とセットになったようなシステムの普及も進んでいる。目標についてはそのあたりの動向も踏まえて、無理のない範囲で改めていきたい。

太陽熱利用システムの申請は 1 件あったが、予算の関係で補助には至らなかった。

(会長)

申請があったのに交付に至らなかったというのは、市としては太陽熱については積極的に進めていないように思える。太陽光発電の補助と予算が共通との説明だったが、目標値を定めているのであれば、太陽熱について独自の予算枠を定めないと申請者に対して不信感を与えるのではないか。そこを見直さないと目標値は到底達成できないので今後はぜひ検討いただきたい。

(委員)

電気事業者の排出係数について、この数値が下がると温室効果ガス排出量の数値も下がるので見かけの数値はよくなっているが、今後も排出係数が下がってくると何もしなくても温室効果ガス排出量も下がるのでそれに安心しているようではいけない。

(事務局)

排出係数の値を一定にした場合の温室効果ガス排出量のグラフも資料でお見せしている。

(委員)

うちんくも COOL CHOICE 宣言の目標は何件か。

(事務局)

今年の 3 月に要綱等を整備して募集を開始した。今のところ目標は定めていない。

(委員)

廃棄物発電事業について、タービンの発電量を上げたということだが、まだ余力はあるのか。

(事務局)

西部クリーンセンターには炉が 2 基あり、今回の報告はそのうちの 1 基の改修が完了した結果となっている。現在もう一つの炉についても改修が完了したので、来年度の報告ではさらに発電量が上昇する見込みである。

(会長)

今回の排出量のデータは、新算定方式に変わった結果、昨年度の資料とは値が変わっている。基本的にこの新算定方式は環境省の方針だとは思いますが、この辺の値の変化の理由について説明いただきたい。

(事務局)

環境省から平成 27 年度に公表された、温室効果ガス総排出量算定方式ガイドライン及び積上法による温室効果ガス算定ツールを参考に新算定方式では算定している。実行計画の冊子の 48 ページに新旧の算定方式を比較したものを載せている。基準年である 2013 年の値で排出量を比較すると、新算定方式のほうが 3% 減となる。

## 審議経過及び審議結果

(委員)

資料のグラフについて、2013年の基準年がわかりやすいように罫線を太くするなどの工夫があったほうがいいのではないか。3ページの上の表で、基準年の列と2013年の列は同じものなのでどちらか一つにしたほうがいいのではないか。最後に3ページの年間電力消費量の表について、数値だけではわかりにくいので前年度との比較を入れるなどすれば、年度ごとの推移がわかりやすくなるのではないか。

(事務局)

ご指摘の部分について、見やすくなるように修正したいと思う。

(会長)

2015年のデータが今後変わる可能性はどれくらいあるのか。

(事務局)

2014年のデータが変更になったのは、平成28年4月1日にスタートした電力の自由化によって、算定元のデータがそろわなくなったことが原因であり、今後は変わらないものと思われる。

(会長)

進行管理指標の目標を見直した方がいいのではないか。例えば、市有施設における年間売電量について、現在の値が1万2千MWhと目標値の4千MWhを超えている。今すぐは難しいかもしれないが全体的に見直してみてもどうか。

(事務局)

次の見直しは平成32年度に行う予定である。

(会長)

平成32年度といわず、できるだけ早く見直してはどうか。

(事務局)

検討します。

(委員)

南部クリーンセンターの環境学習参加者数がC評価なのは、南部クリーンセンターがなかなか行きにくいところにあるのが影響しているのではないか。昔あった市政バスを復活させて、市の施設に見学できるようにするのはどうか。

(事務局)

担当課の財産経営課に伝えておく。

(委員)

9ページのごみの資源化のところ、リサイクルは進んでいると思うが、一方で店頭回収も進んでいると思う。そういうのを指標に含めることができないのであれば、目標を見直すことも考えてはどうか。

(事務局)

ペットボトルの軽量化や店頭回収などの影響もあり、目標値を達成できなかったが、市民の皆様の意識は高まっていると思う。

(委員)

ごみの資源化量で表しているが、ごみの量自体が基準年から50g以上少なくなっているのだから資源化の量が減るのも当然といえる。なので、率で表すといいのではないか。

## 審議経過及び審議結果

(事務局)

ごみの排出量を減らしながらも一人当たりの資源化量は増やしたいということで、量で表していたが、率で表すことも検討したい。

(委員)

西部クリーンセンターの発電量はごみの総量が減ると発電量も減るので、売電を増やすというのは目的ではない。集めたごみをいかに効率的に発電するかということで、例えば発電キロワットあたりにかかるコストでみるか、あるいは稼働率でみるとか、ごみの減量化が目的なのでそういう見方も大事なんじゃないかと思う。

(会長)

クリーンセンターの発電についてはカーボンオフセットなのでそのぶん CO2 削減には意味があるが、売電量を上げるためにごみをどんどん燃やしていくという施設ではないので、そのところは留意していただきたい。

(委員)

レンタサイクルは、外国人の方も登録できるのか。

(事務局)

パスポートか在留カードがあれば、利用可能である。

(委員)

外国人の方でも利用できることの広報がないと思うので、観光客にも積極的に使っていただけるように広報していただければと思う。

(委員)

生ごみ処理機を購入すると補助金が出るということだが、我々も段ボールコンポストという機材を使った生ごみ処理に取り組んでいる。こういう活動にも補助していただくと助かるのだがどうか。

(事務局)

現在の補助対象は機械式の生ごみ処理機及び生ごみを堆肥化するコンポスト容器となっている。環境学習という講座で皆様方には広めさせていただいているが、予算確保が難しいところがある。今後はそういうところも含めて見直しの機会があれば対応したい。

(委員)

コンポスト容器の見直しをお願いしたい。容器の下側に窓がついているのがあり、それだと下から取り出せるのでとても扱いが簡単である。

(事務局)

補助に関して、容器の形状に制限はかけていない。ただし、上限が1機あたり3000円ということで、あまり高級なものは自己負担が増えるという側面はある。

(委員)

コミュニティセンターからコンポスト容器を買おうとすると種類が限られる。

(事務局)

確かに衛生組合などで取りまとめをして購入されているところもある。ただし、個人的に購入したものでも申請すれば、1世帯当たり2機までという制限はあるが補助金を交付している。衛生組合などで取りまとめをしないと補助をしないという趣旨ではないので気に入った形状のものを購入していただければと思う。

審議経過及び審議結果

(2) その他（環境マネジメントシステムについて）

（事務局説明）

（会長）

高松市のカーボンマネジメント事業ということで、見直し案では当協議会がPDCAのチェックのCに練りこまれるということだが、ここでは何をチェックするのかということがわかる形で資料4の3ページの表があるとわかりやすいと思う。

（委員）

市の現在のマネジメントシステムの弱点がどこにあって、何を修正したいのかをもっとはっきりさせてやった方がいいと思う。

（事務局）

いただいた意見を踏まえて、来年度どういう形で見てもらうとチェック機能が効果的に働くか考えていきたい。

以上